

センター試験のリスニング導入と高校英語教育

——長野県野沢北高等学校の例を中心として——

杉野健太郎・徳田 稔*

キーワード：リスニング，センター試験，高校英語教育，長野県，英語

はじめに

現行の高等学校学習指導要領は、平成11（1999）年3月29日に告示され、平成15（2003）年度から学年進行で実施された。さまざまな紆余曲折はあったが、この学習指導要領で教育を受けた高校卒業生を受験生とする平成18（2006）年度大学入試センター試験（平成18〔2006〕年1月実施）から「外国語」という教科の「英語」科目にリスニング試験が導入された。正確を期すために、主に2文献（文部科学省高等教育局学生課大学入試室「『英語』のリスニングテストの導入について」、大学入試センター事業部「リスニング試行テストの実施結果について」）を基にセンター試験の「英語」科目およびそのリスニング試験のポイントを整理しておこう。

試験時間と配点：筆記試験80分200点，リスニング試験30分50点。

出題範囲：高校の「英語」という教科のうちの科目である「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語Ⅰ」に加えて「オーラル・コミュニケーションⅡ」と「英語Ⅱ」に共通する事項。

受験方法：「英語」科目受験者については、全員がリスニングテストを受験する。

成績提供と各大学での利用方法：各大学に対しては、筆記試験の成績とリスニングテストの成績とを区別した上でセットで提供する。成績の利用方法に関しては基本的に各大学の判断となる。

さて、このリスニング試験はそもそもどのような趣旨で導入されるに至ったのか。リスニング試験の導入を主導した文部科学省高等教育局学生課大学入試室は、以下の通り説明している。

高等学校教育に関しては、平成15年度から年次進行により実施されている新しい学習指導要領において、外国語科を必修とするとともに、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの領域を有機的に関連付けた実践的なコミュニケーション能力の育成を重視するなどの改善が図られている。（中略）大学の入学者選抜は、大学教育の入り口として大学教育を受けるのに相応しい能力・適性を判定するものであるとともに、高等学

校以下の教育における指導方法や生徒の学習意欲などにも大きな影響を与えるものである。したがって、外国語によるコミュニケーション能力の育成を図る上で、入学者選抜においてこのような能力を適切に評価することが重要である。このため、各大学の個別試験においてリスニングテストの導入が図られてきているところであるが、全ての国公立大学と多くの私立大学が利用し、毎年約60万人の受験生が受験するセンター試験の位置付けと規模を考えれば、これにリスニングテストを導入することによって、格段に大きな効果が得られるものと期待できる。(文部科学省高等教育局学生課大学入試室 24-25)

この文章から、大学入試が実際の教育現場での指導に大きな影響力を持つであろうことを鑑み、実践的コミュニケーション能力の重視を主な改善点とする新学習指導要領を高等学校以下の教育に根付かせるためにリスニング試験を導入したのだと読み取れるだろう。換言すれば、学習指導要領あるいはカリキュラムと実際の教育指導との乖離を大学入試によって是正することがリスニング試験導入の目的であったのである。その乖離について少し論じてみよう。

すでに指摘した(杉野/徳田ほか11)ように、日本の学習指導要領は第二次世界大戦後ずっと一貫して4つの領域すなわち4技能(「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」)全般の養成を第一目標にしてきた(特に安藤14を参照のこと)。¹しかし、実際の教育現場では、4技能のバランスのよい教育はなかなか実現せず、「読むこと」と文法(指導法で言えば、文法訳読方式[The Grammar-Translation Method])中心をなかなか抜け出せなかった。すなわち、学習指導要領では4技能(「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」)全般の養成をうたってあっても、実際の教育現場では、諸般の事情のためにそれが実現してこなかったのである。それが実現していないことの一例が、平成15年(2003)度から実施されている現行の学習指導要領の一つ前の学習指導要領の下で実際に高等学校で行われていた「オラヨンG」(「オーラル・コミュニケーション」の時間になぜか実際はグラマーを教える)である。²

さて、理念的には4技能のバランスのよい養成を掲げながらも実際は文法訳読中心主義をなかなか抜け出せない日本の中等教育における英語教育を大きく変えようとした、第二次大戦後最初の事業あるいは施策は、昭和60(1985)年のプラザ合意による円高と貿易黒字の拡大を背景にして昭和62(1987)年に開始されたJETプログラム(Japan Exchange Teaching Program; 外国から語学指導助手を招致する事業)であると言えるだろう。おそらく、このJETプログラムに次ぐ第二弾で最終になるかもしれない大きな試みが、センター試験へのリスニング試験導入である。すでに指摘した(杉野/徳田ほか2-6)ように、大学入試は、実際の高校の英語教育現場に大きな影響を与える。また、それを指摘した際に、センター試験にリスニング試験の導入は、依然として指導法が文法訳読方式(グラトラ)中心で文法と読むこと偏重であった英語教育をバランスが取れた方向に変えると期待した。本論文の課題は、そのリスニング試験導入が高校の英語教育現場をどのように変えたかを長野県野沢北高等学校を例にして検証することである。³

I

まず、例となる長野県野沢北高校（長野県では高等学校の正式名称は、「長野県立」ではなく「長野県」に高等学校名が続く）から紹介しよう。野沢北高校は、長野県佐久市にある長野県内屈指の進学校で伝統校であり、普通科と理数科を擁する。第2学区（上田市、東御市、小諸市、佐久市などが該当）に属し、同じ学区の上田高校とともに第2学区を代表する進学校である。

さて、その野沢北高校の英語教育におよぼしたセンター試験リスニング導入の影響を検証するために、まずリスニング導入の前の学習指導要領および教育を検証する。

現行の学習指導要領の準備としての旧学習指導要領

上記したように平成15（2003）年度から実施されている現行の高等学校学習指導要領で教育を受けた生徒が受験する大学入試センター試験からリスニングが導入されたわけだが、その前の高等学校学習指導要領は、平成元〔1989〕年に改訂され、平成6〔1994〕年度の第1学年から学年進行で実施された（以後、この学習指導要領を「旧学習指導要領」と本論文では呼ぶ）。現行の学習指導要領は平成15（2003）年度から学年進行で実施され始めたので、旧学習指導要領に基づく英語教育は、平成6〔1994〕年度入学生から平成14（2002）年度入学生までの9学年に対して行われたことになる。⁴

その旧学習指導要領の最大の特徴は、「オーラル・コミュニケーション」という科目の導入であった。同じ年に改訂された中学校学習指導要領の最大の特徴は、「聞くこと」「話すこと」を別領域とし、オーラル・コミュニケーションを図ろうとする態度の育成重視を一層鮮明化したことであった。したがって、この中学校と高等学校の同年の学習指導要領改訂は、ともに、オーラル・コミュニケーション重視の鮮明化と言えるだろう。⁵ 高等学校に新たに導入されたその「オーラル・コミュニケーション」科目は、Aは日常的な会話能力（＝リスニング・スピーキング初歩）、Bは主にリスニング、Cはスピーチ・プレゼンテーション・ディスカッションを内容とし、生徒は少なくともABCのいずれか一つを履修することになっていたが、実際はABの採択が最も多く、Cは皆無に近かった。それどころか、荻野によると、実際は、「オーラル・コミュニケーション」（あるいはその他の英語科目）の時間を削って文法を教えていたという（これを「オラコンG」と呼ぶ）。また、「全国公立高校進学校アンケート集計結果」（『英語教育』2000年1月別冊〔入試が変わる授業が変わる〕11-12）には、「オーラル・コミュニケーション（OC）」を「2単位確保して、1単位は文法、1単位をOCに充てている」51%、「2単位を確保して、2単位とも文法や演習、英語Iの増単に充てている」24%という数字が示されている。学習指導要領を遵守した教育が行われていなかったことはこのように周知の事実あるいは公然の秘密だが、それは、入試のためである。すなわち、入試で出題されることが多くない授業内容を持つ「オーラル・コミュニケーション」科目は軽視されたのである。これは、大学入試が高校の授業内容と指導を左右してしまう一例である。

しかし、野沢北高校は旧学習指導要領を忠実に実行したので、「オーラル・コミュニケー

ション」の導入により、ALTの英語に直に触れる機会が増えたこともあって、それ以前に比べて「聞く力」は伸びていた。⁶ただ、リスニングに特化した指導について言えば、それを希望する特定の生徒に対して補習などの形態を取って行なわれるに留まっていた。それは、リスニング試験それ自体は、センター試験に導入される以前から各大学の個別二次試験に導入されていたが、東京大学、東京外国語大学、大阪外国語大学などの国立大学や各私立大学の英語学科、英文学科などに限定される局所的なものであったからである。すなわち、リスニングが個別学力試験で課される大学を受験する生徒以外は、特にリスニング試験対策の指導を受ける機会はなかったのである。換言すれば、リスニング試験に対しては、入試直前の個別指導でも充分に対応可能というのが現状であった。

さて、オーラル・コミュニケーション重視の方向へ踏み出した旧学習指導要領に対して、現行の学習指導要領の特徴は、その方向の徹底であると言えるだろう。「オーラル・コミュニケーション」という科目を導入した旧学習指導要領の外国語教育の目的は「中学校、高等学校において外国語を理解し、外国語で表現すること」であった。これに対して、現行学習指導要領のそれは、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。」(中学校と高校は同じ目標)である。中学校で英語が原則必修となり高校では外国語科必修となった現行の学習指導要領に関しては特に「実践的コミュニケーション能力」について議論があった(例えば、小池、三浦を参照のこと)。インターネット上における文字の重要性が再認識されたこともあってか「実践的コミュニケーション能力」となっておりオーラルはついていないものの、「オーラル・コミュニケーション」という科目を継続しているので、現行の学習指導要領は、コミュニケーション重視、とりわけオーラル・コミュニケーション重視の方向にある、すなわち、旧学習指導要領の方向性を継承していると言えるだろう。ただ、松永は、この現行の学習指導要領の「聞く、話す」の偏重傾向を指摘している。しかし、上述したように文部科学省高等教育局学生課大学入試室は「平成15年度から年次進行により実施されている新しい学習指導要領において、外国語科を必修とするとともに、『聞くこと』『話すこと』『読むこと』『書くこと』の4つの領域を有機的に関連付けた実践的なコミュニケーション能力の育成を重視するなどの改善が図られている。」と書いている。したがって、文部科学省は、現行学習指導要領に加えてセンター試験にリスニング試験を導入するという徹底した方策(「聞く、話す」の偏重にも見える方策)を採ることによって、現場の文法訳読偏重をむしろ是正して4技能のバランスの良い教育へと修正しようと意図したと理解できるだろう。いずれにせよ、現行の学習指導要領において教科指導で「変化が大きいのは英語である」と上田(21)は書いているが、かてて加えてセンター試験へのリスニング試験導入となれば、高校の英語教育現場はさぞ変化を余儀なくされたのではないかと推測できる。

II

さて、野沢北高校の教育実践の変化を論じる前に、次に、教育方針を中心に旧と現行の学習指導要領下における野沢北高校の英語教育を概観したい。

野沢北高校の英語教育

野沢北高校の英語教育の基本方針は、旧学習指導要領下でのものと現行学習指導要領下でのものとの間に変化はない。野沢北高校の英語教育を詳しく見てみよう。

野沢北高校の英語教育の両輪とも言えるものは、授業と生徒が授業外でこなす課題である。まず、野沢北高校での授業内容（野沢北高校の授業時間は1時限65分である）に言及しよう。科目「英語Ⅰ」（「英語Ⅰ」の目標は、学習指導要領によると「日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」である）を例にとると、次の3つのパートに分割することができる。それは、「速読」、「音読」、「読解」である。「速読」では、易しい速読教材を簡単な説明も含めて10分以内で扱う。「音読」では、前の授業で扱った単元の英文を家庭で十分に音読してきて、暗唱、暗写する（見ないで書く）。時間的には約15分間。「読解」では、残りの授業時間全ての約40分を充てて行なう教科書本文を読解する。「速読」と「音読」は、授業の中心的部分である「読解」への導入部分としてドリル的な要素を持つものであり、1コマ65分の授業をメリハリあるものにするのに効果的である。

この「速読」、「音読」、「読解」の三つのうちで、ここ10年間を通して野沢北高校の指導の要となってきたのが、「音読」指導である。これは、教科書の本文の内容を十分に理解した後、ひたすら音読をして英文に深く慣れ親しむ方法である。決して「暗唱」すること自体を目的とせず、ただ何十回も読んで味わう。その結果、暗唱できてしまったとしても、それは通過点と考えて更に音読を続けるというものである。具体的に授業の中では、前回の授業で扱った教科書の英文を何十回となく家庭で音読してきて次の授業時に暗唱すると同時に全員が配布された練習用紙に何も見ないで書き出すというかたちで実践してきている。その音読の際に気をつけるように指示していることは、正確な発音・アクセントに心がけることと、意味のまとまりで区切って読むスラッシュリーディングである。この点を強調して指示を出せるようになった背景には、音声教材の充実がある。すなわち、カセットテープからCDへの切り替えも進んで、準拠のワークブックに音声CDが付属するまでになり、生徒全員に安価で持たせることができる環境が整ってきたことが大きい。約10年前は生徒用音声CDが2枚組で5千円程度していたが、現在では千円前後で手に入るようになった。生徒が家庭で使用する音響機器も、カセットテープからMDやCDが主流を占めるようになり、CDを全員配布する環境も同時に整ってきた。このような環境下によって、「音読」を中心に据えた指導形態は、学年全体に一層浸透しやすくなってきたのである。

授業の中心的部分を占める「読解」指導の中では、本文の文法的な解説と内容理解が行なわれる。そこでは、伝統的な訳読式の形態を取ることが多いが、それは、生徒自身が日本語訳と文法的な説明による理解に重きを置いていることが一因となっている。また、担当者によっては、オーラルメソッドで英語による易しい表現への言い換えを多用して、解説したり、具体例を出したりして理解を深める方法も取られている。

さて、「音読」をかなり重視する授業と並ぶ、野沢北高校の指導のもう一つの車輪は、「課題」である。課題は、長期休業用に配布されるもの（長期休業課題）と平日用に配布されるもの（平日課題）の2種類がある。特に後者は学習の進捗状況に合わせてタイミングよく配

布され、授業内容の復習になるように意図されているものであり、野沢北高校の指導の特徴の一つでもある。平成16（2004）年度入学生の3年間の流れを項目別に概観すると以下のようになる。大まかに分類すると、1. 各種の問題集（長期休業と平日課題）、2. サイドリーダー、3. リスニング用、4. 単語・熟語集、語法問題集など、となる。また、課題配付の際に、この課題を出す目的と具体的な取り組み方を記したプリントを毎回必ず付けて、取り組む意味をはっきりさせた。

1. 各種の問題集（長期休業課題と平日課題）

1年次

- 『速読英文法』 エスト出版 8月 平日課題
- 『英文法・語法2』 桐原書店 9月 平日課題
- 『aim 1 英語長文総合問題』 第一学習社 10月 平日課題
- 『Transfer A』 桐原書店 11月 平日課題
- 『ユアーズ演習ノートII 英語』 三友社 1月 年末年始休業課題
- 『英語構文90』 中央図書 2月 平日課題
- 『Transfer B』 桐原書店 3月 平日課題

2年次

- 『英作文法・基礎問題集』 駿台文庫 4月 平日課題
- 『長文と文・作・語法の16章』 山口書店 5月 平日課題
- 『基礎英文問題精講』 旺文社 7月 夏期休業課題（以後、暗唱用教材にして3回反復）
- 『入試英文15の展開』 山口書店 7月 夏期休業課題
- 『英文法の理解と基礎』 山口書店 7月 夏期休業課題
- 『Transfer C』 桐原書店 9月 平日課題
- 『テーマ別 課題論集 21世紀を生きる』 駿台文庫 10月
読解用補助教材
- 『集中演習 英文法・語法4』 桐原書店 10月 平日課題
- 『Transfer D』 桐原書店 12月 平日課題
- 『新訂《口語表現の新演習》』 山口書店 1月 平日課題
- 『ニューミレニアム』 啓隆社 3月 平日課題

3年次

- 『トライアル500頻出イディオム』 山口書店 4月 平日課題
- 『イフエクティブ 40の視点』 エスト出版 5月 平日課題
- 『長文と文・作・語法の18章』 山口書店 7月 夏期休業課題
- 『医系小論文—21世紀の医療』 駿台文庫 夏休み推薦図書
- 『スパーク・リスニングテスト レベル2』 数研出版
国公立大学2次対策用 夏休み推薦図書
- 『自然科学系長文徹底演習』 数研出版 夏休み推薦図書
- 『速攻Z会 英文法・語法10日間』 Z会 9月 平日課題

- 『速攻Z会 英単語・熟語10日間』 Z会 10月 平日課題
 『センター英語「単元別」問題集』 駿台文庫 10月 平日課題
 『ベストレクチャー英作文16講』 山口書店 11月 平日課題
 『センター対策用直前問題集』 美誠社
 『センター対策用直前問題集 リスニング用』 美誠社
 『基礎英文問題精講』 旺文社 暗唱用として最適。3回反復。

2. サイドリーダー

付属している音声教材は、できる限り配布し、読解と音声のリンクに心掛けた。毎回、感想（B5サイズ1枚）と不明な単語を例文と共に調べさせた。

1年次

- 『The Happy Prince』 山口書店 4月
 『山田かまち』 三友社 5月 辞書指導に最適
 『伸ちゃんのさんりんしゃ』 数研出版 6月
 『火垂るの墓』 三友社 7月
 『ジキル博士とハイド氏』 ルビ註ライブラリー 美誠社 10月
 『O・ヘンリー短編集』 ルビ註ライブラリー 美誠社 11月
 『Phantom of the Opera』 Oxford Bookworms 2月
 『キング牧師とアメリカの夢』 三友社 3月

2年次

- 『The New Yorkers』 Oxford Bookworms 4月
 『Charles M. Schulz: My Life with SNOOPY』 数研出版 5月
 『Henry VIII and his six wives』 Oxford Bookworms 6月
 『Alice's Adventure in Wonderland』 Oxford Bookworms 9月
 『ブラック・ジャック』 三友社 2年10月
 『Christmas Carol』 Oxford Bookworms 12月
 『国境なき医師団』 数研出版 2月
 『The Secret Garden』 Oxford Bookworms 3月

3年次

約50冊のリストの中から希望するサイドリーダーを3冊選択して5月から7月にかけて1冊ずつ読む。リスト内のタイトルは、Oxford Bookworms, Penguin Readersを中心とした洋書と数研出版, 三友社, 啓林館などの出版物から選択した。レベルは1年生でも読めるものから大学教材としても用いられるものなど幅広く様々なものを列挙した。3年生の総仕上げのサイドリーダーということもあって、感想も多く提出されて自主的に多読ができた。

3. リスニング用

特に、リスニング対策用の問題集として下記のを3年次に使用し、年間50回に及ぶドリルを行なった。

- 『Listening Super Sheet』 数研出版
 『センター試験英語リスニングテスト第4問B』 桐原書店
 『センター対策用直前問題集 リスニング用』 美誠社

4. 単語・熟語集, 語法問題集など

- 『解体英熟語』 Z会 1年5月に配布し, 3年間使用。
 『速読英単語 入門編』 Z会 2年10月
 『速読英単語 必修編』 Z会 2年1月 4回反復
 『即戦ゼミ8 項目別征服英語問題基礎演習』 桐原書店
 1年11月に配布し2年次まで4回反復して使用。『即戦ゼミ3』よりも薄くて, 内容も限定されているので反復練習するのに有効。

「課題」の目的は, 二つある。まず第一に, 既習事項の復習とその演習である。それだけに, 出される課題の難易度は常に易しめに設定されている。第二に, 自学自習の習慣付けである。特に後者について説明を加えると, 課題が配布されてから提出するまでの期間はおおよそ1ヶ月。生徒たちはその間に取り組むページ数の割り振りをし, 計画的に学習を進める必要がある。言い換えると, 毎日の予習と復習に加えて, 自分で決めた時間を課題のために有効に活用するリズムを作り出さなければならない。この過程を通じて, 生徒たちは自主的に課題設定をして基礎力を定着させていけるようになる。

校外模擬試験で高得点を取る上位層は, 日頃の学習量に加えて, 課題提出も着実に, 模試の全国偏差値も次第に充実して実力をつけていった。中位層から下位層では学習習慣(予習・復習)の定着が不十分な生徒がやや見られ, また課題提出率も5割から6割程度であったため, 2年次後半から3年にかけての伸びがあまり見られなかった者もいる。「課題」指導の大きなポイントは, 1年次での学習習慣定着と課題の提出率を上げることだと思われる。

高校での学習習慣が定着した生徒は, 予習も効率よく機能して, 授業を有効に活用することができていた。また, 課題配付の際に, この課題を出す目的と具体的な取り組み方を記したプリントを毎回必ず付けたと先にもふれたが, その通りに素直に取り組めた生徒は確実に実力が身に付いていった。しかし, 中位・下位層への一層の動機付けと, 特に家庭での学習習慣定着をはかることが大きな次の課題として残っていることは認めなければならないだろう。

III

さて, 上で見てきたように, 野沢北高校の英語教育方針自体は, 旧学習指導要領から現行学習指導要領に移行しリスニング試験が導入されても大きく変わったわけではない。しかし, 実際の指導において力点の置き方に変更が生じたのは確かなことである。次に, 導入決定以後の力点の変化に触れたい。

リスニング試験の導入が決定されたことを受けて, 野沢北高校では今までの指導方法を踏まえながら, その延長線上にリスニング力の向上をねらって, いくつか力点の置き方を変更して取り組んできた。「英語I」について述べれば, 同じ「英語I」の教科書を扱う際にも,

音声の扱いが手厚くなった。

まず第一には、モデルリーディングとコーラスリーディングに時間を多く取り、母音の微妙な違いを含めた正確な音の理解にいっそう力を注ぐようになった。それにより、以前から行なってきた「音読」の指導もより徹底して行なうことができるようになってきた。

第二に、それ以前には省略することが多かった音声指導用の単元も CD を活用しながら、ドリルの一つとして行なう機会が確実に増えた。このことにより以前よりも進度の遅れが生じるものの、リスニングによる内容理解やリスニング力の向上が付加されるので、学年全体を通じての内容の理解度や定着度には大きなマイナスは感じられない。

第三に、3年生からではあるが、授業の最初のドリルの中に、速読に加えてリスニングのドリルを行なうようになった（1年生から始めた年度もある）。具体的には、『Listening Super Sheet』（数研出版）やセンター試験第4問B（長めの朗読文のリスニング問題）専用問題集（桐原書店）などを5分から10分以内で行なってきた。しかし、このわずか10分程度の時間では絶大なる効果は期待できないので、更に自主的な学習を促す工夫として、家庭でのドリルの復習と日頃の「音読」活動の相乗効果をくり返し指摘して実践させることが必要となった。

次に「オーラル・コミュニケーションⅠ」について述べれば、「オーラル・コミュニケーションⅠ」の授業内容は、よりコミュニカティブなものに変わりつつある。つまり、ALTの発問に対して即答できるQ&Aの形式を授業の冒頭に毎回取り入れたり、1時間ごとに完結して終わってしまう連続性のないアクティビティではなく、数ヵ月かけてひとつのテーマ（例えばディベートやエッセイライティング）を扱って、内容に広がりや深さを持たせて思考しながら聞く力と話す力を養う方向を取ようになってきた。これは、現行学習指導要領の「オーラル・コミュニケーションⅠ」の「3 内容の取り扱い」の(2)にあるように、「読むこと及び書くことも有機的に関連付けた活動を行うことにより、聞くこと及び話すことの指導の効果を高めるよう工夫するものとする」という方向を更に推し進めることにもつながっているはずである。

次に「課題」に関して述べれば、以前は内容が読解中心の課題がほとんどだったが、読解に加えてリスニングや語法や英作文を含む総合的な課題中心へと変化した。以前は、読解用、サイドリーダー、文法・語法用、英作文用などを順番に配布する機会が多かったが、リスニングが必ず入った問題集を配布することが多くなったのである。総合的な内容を持つ問題集はCD付きのものが700円から800円程度の価格になってきており、安価に手に入るようになってきていることがこの背景にはある。

このように、野沢北高校の英語教育方針は大きく変わっていないものの、リスニング試験が導入されたことによって、ある意味では自然と上記のような変化が起こってきた。入試問題に対応するための現場の動きは敏感で敏捷なものがあり、同時にそれはこの時代に高校時代を送る生徒たちにとって最善のものへの変化でもある。野沢北高校では、教科書の「音読」を徹底して指導する授業および「課題」という両輪の延長線上にリスニング指導も構築しようと取り組んできた。平成19（2007）年度の3年生は、リスニングが導入された当該学年から数えて3年目に当たる。それまでの3つの学年が同時期に行なってきた全国模擬試験のリスニングの平均偏差値を比較して見ると、毎年確実に上昇してきているのがわかる。具

体的には、平成17年度5月が53.1、平成18年度5月が54.0、平成19年度5月が54.5となっていてきている。センター試験のリスニング導入を受けて、現3年生は特に1年次からリスニング指導をドリルで行なってきていることもあって、模試の平均偏差値は高くなってきている。入学以来、「音読」と「課題」学習で培ってきた読解力の上に立って、早い時期からリスニング指導を開始すると、着実に効果が出てくることがわかる。

おわりに

長年の入試問題の傾向は文法読解中心が主流であり、高校内での授業内容も読解問題を意識した訳読式の授業が中心に行なわれてきた。新たに語法問題が出題されるようになると、それらを集めた問題集、例えば『即戦ゼミ』シリーズ（桐原書店）などをドリルで扱う傾向が顕著になってきた。更に、英作文が出題されるようになると、例えば「和文英訳式」の問題に対しては、先の語法問題集を徹底的に理解した土台の上に、臨機応変に対応できる応用力養成を目指して問題演習を増やしたり、既習の表現を使って日記を書かせる指導も行なわれてきた。同じ英作文でも、テーマを与えて自由に意見を述べさせる形式に対しては、エッセイライティングの指導に力を入れて、形式を踏まえた文章の書き方を指導するようにもなってきた。ここ数年の出題傾向としては、四コマまでの漫画を示して感想を求めたり、ストーリーを作らせたりするものも登場してきており、単に英語力だけを要求するのではなく、受験生の感性や創作力といった総合的な力を見ようとする問題も現われてきている。これに対しては、日頃の授業を中心とした学習に加えて、個別指導ではあるがテーマを与えてのリサーチ学習を取り入れて視野の拡大を促したり、読書やクラブ活動を通じて多種多様な学習経験を積むような指導も取り入れられてきている。小論文が入試に導入された時も、NIE（Newspaper in Education 学校等で新聞を教材にする学習活動）や図書館を活用しての読書指導、サイドリーダーによる視野拡大のための指導などが対応策として取られてきた。

このように、入試科目の変化は、直接的に高校教育現場の指導の内容に影響を与えるものである。入試のなかでもセンター試験は、多くの受験生が受験する（正確には、平成19年度の試験の英語科目受験者は520,048人）大規模な試験であり、その影響力は計り知れない。少なくとも、日本の大学入試のなかでは最も大きな影響を与える試験であることは言うまでもない。また、センター試験の問題が高校の学習を踏まえた良問であることも否定しがたい。センター試験にリスニング試験が導入されることによって個別試験におけるリスニング試験が前年度の52大学129学部から34大学68学部へと激減した（内部）ことは、センター試験が良問であることに対する信頼の現れであろう。おそらく千葉県为例だろうが、千葉県立千葉女子高校の教諭の向後は、グラトラー本やりだった受験英語の達人の先生の授業に突然リスニング演習が入ったり、従来は「オーラル・コミュニケーションI」で多少リスニングを扱った後は卒業まで音声不在の英語教育をしていた教員でさえ動かざるを得なかったと概括している（向後2006年12月 3）。上で野沢北高校の例を詳細に述べたが、野沢北での変化はここまで極端ではなかったが、方向性は同じである。すなわち、リスニング試験は、実際の教育を学習指導要領に忠実な方向へと大きく変えた。「オーラル・コミュニケーション」という科目を導入したものの実際の教育内容には大きな変化をもたらすことができなかった旧

学習指導要領を継承する現行学習指導要領では、実際の教育は、センター試験へのリスニング試験の導入という援軍を得て、学習指導要領と大きくは違わぬものになったのである。最初に指摘した文部科学省の意図が実現したと言えるだろう。

さて、最後に英語教育史的な視点からリスニング試験導入と高校英語教育の変化を考えてみよう。その助けとして、英語の4技能を復習してみよう。

	音声	文字
受信	リスニング	リーディング
発信	スピーキング	ライティング

この4技能にボキャブラリー（語彙）とグラマー（文法）の2能力を入れて考えよう。文法訳読方式という言葉があるように、日本の中等教育の英語教育においては、かなりの長い間、グラマーとリーディング偏重の教育が行われてきたと言えるだろう。向後（2006年12月3日）が「音声不在」という言葉を従来の英語教育に使っているように、リスニングとスピーキングはかなり軽視され続けてきた。冒頭で述べたように、日本の学習指導要領は第二次世界大戦後ずっと一貫して4つの領域すなわち4技能（「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」）全般の養成を第一目標にしてきた。しかし、実際の教育現場では、なかなか4技能のバランスが良い教育は実現してこなかった。このバランスの悪さを是正したという点において、センター試験へのリスニング導入は大きな成果があったと結論づけることができる。⁷ この大きな変化はかなり遅きに失した感はあるが、遅すぎたとは言えないだろう。英語教師の能力の進化も必要である上に、日本のグローバル化、音声機材の進化、衛星放送の開始、ネットの普及、そもそも試験のための機材の進歩、などが20世紀最後にでそろうたことを考えると、遅いにしても10年くらいだろうと思われる。

さてそれはいいとして、最後に未来の展望を示したい。正確な調査はないが、4技能と2能力のうち、大学入試で問われない技能は、スピーキングだけになった。高校英語教育が全体的に「音声不在」を克服する方向に向かっていることは間違いないが、音声技能のうち受信技能のリスニングはセンター試験へのリスニング導入によって好むと好まざるに関わらず高校英語教育に取り入れられたが、残るはスピーキングである。⁸ TOEICやTOEFLなどにも見られるように、発信技能とりわけスピーキングの試験は実施が難しい。今後、センター試験にもスピーキングが導入されるか、面接試験くらいにとどまるかは、テクノロジーの進歩との関わりもあるので、まったく予想できない。ただ、その方向が残されているということは間違いない。⁹

注

- 1 平成15年度から学年進行で実施されている現行の学習指導要領の「実践的コミュニケーション能力」に関しては、さまざまな議論がなされた（例としては、小池、三浦、青木、中森を参照のこと）。「実践的コミュニケーション能力」も4技能のバランスのよい教育を行うという路線にあると判断できるだろう。引用した箇所「4つの領域を有機的に関連付けた実践的なコミュニケーション能力」から判断すると、「実践的なコミュニケーション能力」とは、要するに、4つの

領域が有機的に関連付けられた能力と理解できるからである。

- 2 ただ、ポキャブラリー（語彙）とともに4技能と密接な関係を持つであろうグラマー（文法）を学ばすして英語力がつくのかという問題もある。この問題の簡単な見取り図は、杉野／徳田ほか（11）を参照のこと。
- 3 本論文は、平成15年（2003）度から実施されている現行学習指導要領が高校生の英語力にどのような影響をもたらしたかを考察することに主眼を置くものではない。また、文法訳読偏重の英語教育あるいは4技能のバランスがよい英語教育が高校生の英語力に与える影響を考察するものでもない。ましてや、現行学習指導要領の適切性を論じるものでもない。
- 4 ちなみに、平成14（2002）年度は、その年から施行された小学校学習指導要領下において、「総合的な学習の時間」のなかで小学校3年生から英語を学ぶことができるようになった年である（ただし、準備が整った学校では「総合的な学習の時間」を平成12年度から導入できるという移行措置があった）。
- 5 学習指導要領の改訂による英語教育の変化の変遷の簡潔な見取り図に関しては、江利川およびJACET教育問題研究会（20-23）を参照のこと。
- 6 正確なデータを提出したいが、高校名が入ったデータを公開することの問題などのために、差し控えざるを得なかったことを付記しておく。
- 7 リスニング試験導入にはさまざまな労力や費用がかかったので、対費用効果あるいは対労力効果には問題があるかもしれないが、その点は本論の課題ではない。また、もちろん、旧にしても現行にしても、日本の中等教育の学習指導要領が最も適切な英語教育を指し示しているかを吟味することも本論文の課題ではない。
- 8 野沢北高校では、今後更に四領域全ての力をバランスよく伸ばすことを意図して、とりわけリスニングだけではなくスピーキング能力をも養うことを目的にディベートを教育に取り入れている。一般的に、ディベートに関しては、「オーラル・コミュニケーションⅠ」の授業の中でふれる機会を入れ、数多くの高校生が取り組んできている。とりわけ長野県では平成19年度には15回目となる高文連主催の「高校生英語ディベート大会」が11月に開かれ、全国でも最多を数える大会になっている。全国大会も組織されて、平成19年度には第2回目の「全国高校生英語ディベート大会」が12月に開催された。学習指導要領の「2 内容」の「(1) 言語活動」で「聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを理解する」ように指導し「グループにおけるコミュニケーションの場面を積極的に取り上げるよう配慮するものとする」とあるが、ディベート活動はまさにこれを具現化する活動に当たる。野沢北高校では、この大会に参加することによって生徒のスピーキング能力も涵養しようと努めている。
- 9 センター試験へのリスニング試験導入が大学の英語教育および専門教育にどのような変化をもたらしたかは本論文の課題ではないが、少しでもふれておきたい。少なくとも信州大学の共通教育は、センター試験へのリスニング試験導入以前も以後も4技能のバランスのよい教育を方針としている。ただ、それが実際に行われているかどうかは、これもまた本論文の課題あるいは主題ではない。

* 執筆者の所属は、杉野健太郎は信州大学人文学部、徳田稔は長野県野沢北高等学校である。

参考文献一覧

安藤昭一編『英語教育現代キーワード事典』増進堂、1991年。

上田敏和「学校現場における新学習指導要領の取組について」、『大学入試フォーラム』28 [2005年12月], 17-25。

- 内部学「個別試験でのリスニングは激減—2006年度国公立大学入学選抜の概要」、『内外教育』5594 (2005年9月9日号), 7-9。
- 江利川春雄「指導要領から見た授業の変化と展望」、『英語教育』57 [7] (2007年10月号), 10-13。
- 岡秀夫／小野博／菅正隆ほか「座談会 大学入試・センター試験にリスニングテスト導入?! 英語 I・OC の授業はどう変わる—新指導要領を踏まえて徹底討論!!」、『英語教育』48 [13] (2000年1月), 24-45。
- 荻野俊哉「高校英語教師より石田先生への答え」、『現代英語教育』1999年1月号 (特集 英語教育の「連携」のために) 所収。
- 小池生夫「中・高・大の英語教育におけるコミュニケーション能力養成の問題点」、『大学時報』50 (279), 通号292 [2001年], 64-69。
- 小池生夫編集主幹『応用言語学事典』, 研究社, 2003年。
- 小森清久「センター試験 傾向と対策」、『英語教育』53 [13] (2005年3月号), 22-25。
- 「センター試験リスニングテストの分析と対策」、『G.C.D. 英語通信』No.39 (2006年5月), 20-21。
- 向後秀明「教室でもこれだけできるリスニングテスト対策」、『G.C.D. 英語通信』No.39 (2006年5月), 18-19。
- 「英語リスニングテストの導入がもたらしたものと今後の課題」、『大学入試フォーラム』29 (2006年12月), 3-7。
- JACET 教育問題研究会『新 英語科教育の基礎と実践』, 三修社, 2005年。
- 白畑知彦／富田祐一／村野井仁／若林茂則『英語教育用語辞典』, 大修館書店, 1999年12月。
- 杉野健太郎／徳田稔ほか『高校英語教育と大学英語教育の接続をめぐる』, 信州大学教育システム研究開発センター, 2000年12月。
- 大学入試センター「英語リスニングテストについて—大学入試センター試験に初めて導入—」、『月刊高校教育』39 [1] (2006年1月), 58-61。
- 大学入試センター事業部「リスニング試行テストの実施結果について」、『大学入試フォーラム』27 (2004年12月), 15-18。
- 「平成18年度大学入試センター試験について—英語リスニングテストを中心として」、『大学入試フォーラム』28, 2005年12月, 3-7。
- 野沢北高等学校「学校要覧 平成19年度」, 平成19 [2007] 年。
- 「平成20年度学校案内」, 平成19 [2007] 年。
- 三浦弘「新学習指導要領と大学入試『英語』」、『専修人文論集』66 (2000年), 9-25。
- 中森恵津子「外国語 (英語) 科の新学習指導要領について」、『園田学園女子大学論文集』34 [I] (1999年12月), 13-21。
- 松永淳子「高校の授業は変わったか?」、『英語教育』57 [7] (2007年10月号), 14-16。
- 森秀夫「英語リスニングテストが導入されることを受けて」、『大学入試フォーラム』27 (2004年12月), 19-28。
- 文部科学省『高等学校学習指導要領』, 平成11年3月 (平成11年3月告示, 14年5月, 15年4月, 15年12月 一部改正), <http://211.120.54.153/b_menu/shuppan/sonota/99031/03122603.htm>。
- 文部科学省高等教育局学生課大学入試室「『英語』のリスニングテストの導入について」、『大学入試フォーラム』26 (2004年3月), 24-29。
- 文部科学省大学振興課大学入試室「平成18年度大学入試センター試験における英語のリスニングテストの実施について」、『大学資料』169 (2006年1月), 103-108。
- 「全国公立高校進学校アンケート集計結果」、『英語教育』2000年1月別冊 [入試が変わる授業が変わる], 11-12。

参考資料

現行学習指導要領下での野沢北高校の教育課程
平成19年度（1～3年）

教科	科目	標準 単位数	1 年		2 年			3 年					
			普通	理数	文	理	理数	文 I	文 II	理	理数		
国 語	国語表現 I	2											
	国語表現 II	2											
	国語総合	4	5	5									
	現代文	4			3	2	2	2	2	2	2	2	
	古典	4			4	2	2	3	3	3	3	3	
	古典講読	2						2	2				
	世界史 A	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	世界史 B	4						①	2	①	2	①	2
	日本史 A	2			2	2	2	2	2	2	2	2	
	日本史 B	4			①	①	①	2-①	2-①	2-①	2-①	2-①	
地理歴史	地理 A	2			2	2	2						
	地理 B	4						2	2	2	2	2	
公 民	現代社会	2	2	2									
	倫理	2						4	①	4	①	2	2
	政治・経済	2						4		4		2	2
数 学	数学基礎	2											
	数学 I	3	5										
	数学 II	4			4	5		2					
	数学 III	3									4		
	数学 A	2	2										
	数学 B	2			2	2		1					
	数学 C	2									2		
理 科	理科基礎	2											
	理科総合 A	2											
	理科総合 B	2	2										
	物理 I	3			4	4							
	物理 II	3						4	4	4			
	化学 I	3			4-①	4-②							
	化学 II	3						4	4	4			
	生物 I	3	2					4-①	4-①	4-②			
	生物 II	3						4	4	4			
	生物 III	3			4	4							
保健体育	体育	7~8	2	2	3	2	2	3	3	3	3	3	
	保健	2	1	1	1	1	1						
芸 術	音楽 I	2	2	2									
	音楽 II	2											
	音楽 III	2						2					
	美術 I	2	2-①	2-①									
	美術 II	2						2	①▲				
	美術 III	2											
	工芸 I	2											
	工芸 II	2											
	工芸 III	2											
	書道 I	2	2	2									
外 国 語	書道 II	2						2					
	書道 III	2											
	オーラル・コミュニケーション I	2	2	2									
家 庭	オーラル・コミュニケーション II	4						1▲					
	英語 I	3	4	4									
	英語 II	4			5	4	4						
	ライティング	4						5	5	4	4		
	ライティング	4			2	2	2	2	2	2	2	2	
情 報	家庭基礎	2	2	2									
	家庭生活	4											
	食生活	4											
専 門 教 育 科 目 関 連	※フードデザイン	2							2▲				
	情報 A	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2		
	情報 B	2											
	情報 C	2											
	理数数学 I	6~8		7									
理 数	理数数学 II	8~10						7				6	
	理数物理	6~8						4				4	
	理数化学	6~8						4-②				4-②	
	理数生物	6~8		4								4	
	理数地学	6~8						4				4	
総合学	3~6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
教科単位数計			35		35			35					
ホームルーム		3	1		1			1					

①・②は選択科目数を表す。 ▲から3単位選択。

普通科教育課程（19年度入学生）

1年	国語総合	世史	現社	数学Ⅰ・A	理総	生物	保	体育	芸術	英語Ⅰ	OC	家庭	情	総	L
2年	文系	現代文	古典	地歴①	地歴②	数学Ⅱ・B	理科①	保	体育	英語Ⅱ	W	情	総	L	
	理系	現文	古典	地歴①	数学Ⅱ・B	理科①	理科②	保	体育	英語Ⅱ	W	情	総	L	
3年	文系	現代文	古典	地歴①	公民	数学Ⅱ・B	理科①	体育	英語Ⅱ	W	総	L			
	理系	現文	古典	地歴・公民	数学Ⅲ・C	理科①	理科②	体育	英語Ⅱ	W	総	L			

理数科教育課程（19年度入学生）

1年	国語総合	世史	現社	理数数学Ⅰ	理数生物	保	体育	芸術	英語Ⅰ	OC	家庭	情	総	L
2年	現文	古典	地歴①	理数数学Ⅱ	理数物理	理数化学	保	体育	英語Ⅱ	W	情	総	L	
3年	現文	古典	地歴・公民	理数数学Ⅱ	理科①	理科②	体育	英語Ⅱ	W	総	L			

※平成20年度学校案内より

現行学習指導要領下での野沢北高校の年間行事

4月	入学式	7月	日輪祭（文化祭）	10月	強歩大会	1月	学力コンクール（1・2年）
	オリエンテーション（1年）		保護者懇談会		高体連新人戦		センター試験
5月	対面式	8月	高野連大会	11月	生徒総会	2月	後期特編授業（3年）
	応援練習		夏季休業		修学旅行（2年）		3学期期末考査
6月	校内模試（3年）	9月	夏季補習	12月	松代遠足（1年）	3月	前期選抜
	学力コンクール（2年）		体験入学 3日		校内模試（3年）		校内模試（3年）
7月	基礎学力テスト（1年）	10月	校内模試（3年）	11月	学校説明会 17日（土）	12月	国立・公立大学二次試験
	体育祭		学カコンクール（1・2年）		2学期期末考査		前期特編授業（3年）
8月	高体連東信大会	9月	大学模擬講義（1年）	10月	保護者懇談会	11月	理数科
	1学期中間考査		コース選択説明会（1年）		総文祭（囲碁将棋等）		課題研究発表会 8日（土）
9月	PTA 地区懇談会	10月	芸術鑑賞	11月	年未年始休業	12月	卒業式
	PTA 総会		2学期中間考査		後期選抜		年度末休業
10月	高体連県大会・北信越大会	11月		12月		1月	春季補習
	1学期期末考査						新入生オリエンテーション

※平成20年度学校案内より

旧学習指導要領下での野沢北高校の教育課程

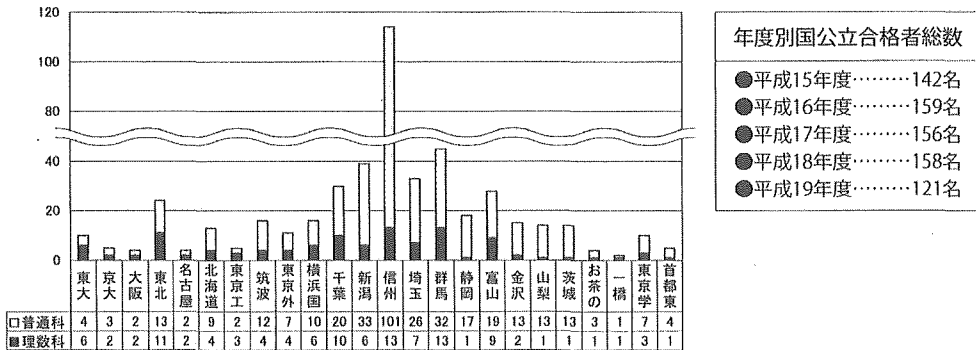
教科	科目	単位	1 年		2 年			3 年				
			普通	理数	文	理	理数	文 I	文 II	理	理数	
国語	国語 I	5	5	5								
	現代文	4~6			3	2	2	3	3	2	2	
	古典 I	2~3			3	3	2					
	古典 II	3~4						4	4	3	3	
	古典購読	2							2◆			
地歴	日本史 A	2										
	日本史 B	4						4	4	4	4	
	地理 A	2						4	4	4	4	
	地理 B	4						4	4	4	4	
	世界史 A	2							2◆			
	世界史 B	3~8			4	3	3	4	4			
公民	現代社会	4~8	4	4				4	4			
	倫理	2						4	4			
	政治経済	2						2	2			
数学	数学 I	4	4									
	数学 II	3~4			3	4						
	数学 III	4						4	4◆	4		
	数学 A	2	4									
	数学 B	2			2	2						
	数学 C	3									3	
理科	物理 I B	3			3	3						
	物理 II	4						4		4		
	科学 I B	3			3	3						
	科学 II	4			①	②		4		4		
	生物 I B	4	4					4		4	②	
	生物 II	4						4	4◆	4		
	地学 I B	3			3	3		4		4		
	地学 II	4						4	4◆	4		
保健	体育	7~9	3	3	3	3	1	3	3	3	2	
	保健	2	2	1		1	1	1			1	
芸術	芸 I 音美書	2	2	2				2				
	芸 II 音美書	12			2	1	1		①◆			
	芸 III 音美書	2						2				
外国語	英語 I	4	4	4								
	英語 II	3~4			4	4	3					
	OralC. A	2										
	OralC. B	2	2	2								
	OralC. C	2							2◆			
	Reading	4						4	4	4	4	
	Writing	4~6			3	2	2	3	3	2	2	
家庭	家庭一般	4	2	2	2	2	2					
	食	2							2◆			
理数科	理数数 I	7		7								
	理数数 II	14					7				7	
	理数物理	4~8					4				4	
	理数化学	4~8		4							4	②
	理数生物	4~8					4	①			4	
理数地学	4~8					4				4		
教科単位数	*	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	
LHR	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
クラーブ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
総単位数		35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	

①②は選択科目を示す。3年次文II係は◆印教科の中から8単位選択。

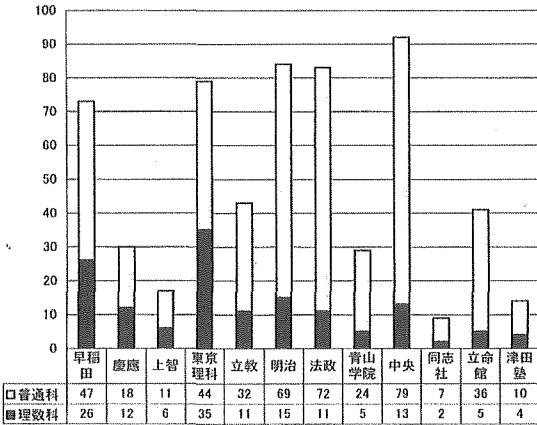
※平成12年度 学校要覧より

野沢北高校の進学実績（平成15年度から平成19年度の5年間）

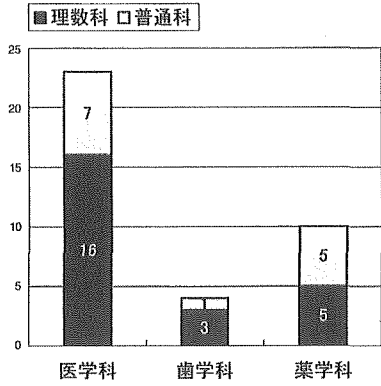
●主な国公立大学合格者数（過去5年）



●私立大学合格者数（過去5年）



●国公立大学医・歯・薬学科合格者数（過去5年）



※平成20年度学校案内より

(2007年11月20日受理)